

ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究

高木麻紀子 著

本体価二二、〇〇〇円＋税

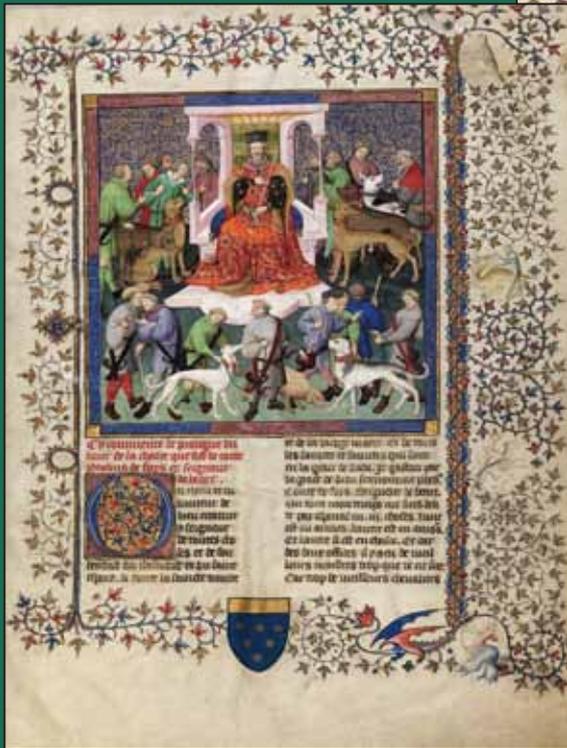
A5判上製函入 本文六〇二頁 口絵八頁 ISBN 978-4-8055-0877-0 C3071 二〇一〇年一月刊

西洋中世美術史上でも広く知られる、豪華な装飾が施された

ガストン・フェビュスの『狩猟の書』写本群を体系化した上で、

この中世末期の世俗彩飾写本におけるイメージの変遷の

諸相を説明することを目指す初の試みである。



ガストン・フェビュスの『狩猟の書』挿絵研究

本体価 22,000 円 + 税

A5 判上製函入 本文 602 頁 口絵 8 頁

ISBN 978-4-8055-0877-0 2020 年 1 月刊行

著者略歴

高木麻紀子（たかぎ・まきこ）

2010 年、ストラスブール大学大学院修士課程美術史専攻修了。
2013 年、東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士（美術）。
東京藝術大学美術学部教育研究助手を経て、現在は、東京藝術大学大学院美術研究科専門研究員のほか、清泉女子大学、東京成徳大学、東海大学、東洋大学で非常勤講師を務める。

◆主著

『中世美術の諸相（ヨーロッパ中世美術論集 5）』（共著、竹林舎、2018 年）。

はじめに

I ガストン・フェビュスの『狩猟の書』概観

- 1 『狩猟の書』の概要
- 2 『狩猟の書』の研究史と問題の所在
- 3 『狩猟の書』の挿絵入り写本の現状と現段階での系統樹の提案
- 4 本書の目的とその手順

II 初期写本の画像——「狩猟図」を中心に

- 1 中世美術における「狩猟図」概観および初期写本の「狩猟図」の分類
- 2 「騎馬による狩猟」の画像
- 3 結び

III 初期写本の造形的特質——自然表現の系譜におけるその位置づけ

- 1 序
- fr. 616 写本の挿絵をめぐる様式研究
- 2 動物表現の特質とその源泉
- 3 風景表現の特質とその源泉
- 4 fr. 616 写本における革新性
- 5 結び

IV 中期写本にみる伝統と刷新 1——fr. 1291 写本における変容の諸相

- 1 序
- fr. 1291 写本と Ms. 3717 写本
- fr. 1291 写本の先行研究と問題の所在
- 2 写本構成における変更とその意味
- 3 『狩猟の書』の画像伝統からの変容——テキストとの関係
- 4 画面構成における伝統と革新
- 5 fr. 1291 写本の挿絵の技法——〈デッサン・コロリエ〉
- 6 結び

V 中期写本にみる伝統と刷新 2——Ms. 3717 写本における模倣と創造

- 1 序
- Ms. 3717 写本の先行研究と問題の所在
- 2 写本構成と来歴
- 3 Ms. 3717 写本の画像の分類
- 4 新たな画像表現の着想源をめぐって——モティーフを中心に
- 5 画面構成における伝統と革新
- 6 結び

VI 『狩猟の書』の終焉——後期写本とフランドルにおけるその受容をめぐって

- 1 序
- 後期写本の概要と研究史——ジュネーヴ写本を中心に
- 2 ジュネーヴ写本の「序文挿絵」にみる伝統と刷新
- 3 結び

結語——中世末期世俗彩飾写本におけるイメージの変遷

あとがき／索引／一次史料・参考文献一覧／図版・出典一覧／Appendix

関連書籍

【辻莊一・三浦アンナ記念学術奨励賞受賞】

11 世紀イベリア半島の装飾写本

“モサラベ美術” からロマネスク美術へ

久米順子 著

本体価 28,000 円 + 税

10 世紀の“モサラベ美術”から 12 世紀のロマネスク美術へ。イベリア半島独自の様式から汎ヨーロッパ的な美術様式へ。この変化は、なぜ、どのように、11 世紀のイベリア半島で起こったのか。政治・社会・宗教的要因を踏まえつつ、多数の写本の実見調査を通して、装飾写本の分野における様式移行の諸相を考察した労作。

B5 判上製函入 本文 296 頁 口絵 48 頁
ISBN 978-4-8055-0671-4

レオンの「960 年聖書」研究

毛塚実江子 著

本体価 19,500 円 + 税

スペインの古都レオンのサン・イシドール王立参事会聖堂に所蔵されている 960 年の年記をもつ聖書（『960 年聖書』）は、初期中世キリスト教美術を代表する写本例である。本書は『960 年聖書』のモノグラフ研究であると同時に、新たな視点から挿絵群を分析し、制作者の意図に迫る試みである。

A5 判上製函入 本文 416 頁 口絵 16 頁
ISBN 978-4-8055-0782-7

ヴィッラ・マダマのロジャ装飾

メディチ家教皇の理想画像

深田麻里亜 著

本体価 16,000 円 + 税

ローマに建つヴィッラ・マダマ内「庭園のロジャ」のヴォールト及び壁面装飾を主要な考察対象とし、各画像の詳細な検討を行う。それにより、メディチ家の二人の君主を称揚する画像について指摘し、新たなヴィッラのロジャ内部における装飾プログラムの存在を明らかにする。

A5 判上製函入 本文 416 頁 口絵 8 頁
ISBN 978-4-8055-0783-4

中央公論美術出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-10-1
IVY ビル 6F

Tel: 03-5577-4797 Fax: 03-5577-4798

お取り扱いは